

2021年9月24日

町田美容専門学校

校長 中溝 京子 殿

学校関係者評価委員会

## 学校関係者評価委員会報告

2020（令和2）年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

### 記

#### 1 学校関係者評価委員

- ① 鈴木 則子（東京都美容業生活衛生同業組合 組合員）
- ② 河島 健（一般社団法人 一生美容に恋する会 代表理事）
- ③ 長谷川 雅一（株式会社エムエイチ 代表取締役）

#### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

第1回委員会 2021年9月6日（会場 町田美容専門学校 図書室）

#### 3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり

以上

## 【別紙】

### I 重点目標について

#### 1 重点目標①について

新型コロナウイルス感染症の影響により、新学期早々から通常授業が始めることができない中、オンライン授業などをできることを考え行ってきたことについて、教職員の方々のご努力は計り知れません。

そんな中でも、現役美容師の協力を得ながらカラーリング等の授業や就職ガイダンス等を行い、学生にとって有益な授業が行えていたように思う。

今後、情勢を見ながら、学生の職業意識や学習意欲向上につながる授業は続けてほしいと思う。

#### 2 重点目標②について

挨拶、マナー教育の徹底は、職業教育の根幹であり、将来の中途退職者にならない学生育成につながっていくと思います。より一層の指導を希望します。

普通の教職員との話し方、接し方から気を付けていくことが大事です。教職員にもそのことを意識した対応が必要だと思います。

### II 各評価項目について

#### 1 教育理念・目的・人材育成像

- ・頑張る人よりも頑張れる人を養育する教育機関として、これからも伝え続けてほしい。
- ・少子化対策として、榎本学園のブランディングをしていく時期にきている。普遍的なものを大切にしつつ、時代にマッチした将来的な構想を考える必要がある。

#### 2 学校運営

- ・業務効率化の推進のために、システム改革を考えてもいいのではないか。各種の制度、システム、カリキュラム等、時代のニーズを的確にとらえ、変革改革を恐れず対応してほしい。
- ・教職員のチームワーク、動きの良さをいつも感じている。次世代への伝承を心掛けている様子が見られ、好感がもてる。

#### 3 教育活動

- ・今年度は新型コロナウイルスの影響によりなかなか思うような授業ができなかったように思う。今後も、世の中の情勢、社会の変化や時代のニーズを的確に読み、スピード感を持って対応してほしい。
- ・SNSの講義は、今後も内容を精査しつつ継続する事を希望する。

#### 4 学修成果

- ・学生の技術力、就職率・退学率等の良い結果に、教職員のサポート・粘り強い対話・指導

## 【別紙】

力が表れていると思う。今後も継続されることを希望する。

- ・姉妹校と協力し、業界を超えた知識を授業に取り入れてはどうか。

## 5 学生支援

- ・学費負担の軽減を目的としたアルバイト進学制度や奨学金制度の拡大を望む。
- ・経済的理由から進路変更の学生を減らす意味でも、より一層の学費軽減制度の充実をお願いしたい。
- ・学生がカウンセリングを活用していると聞いている。教職員の仕事量軽減にもつながっているように思う。
- ・卒業生の支援も重要である。入社後のサポート体制に不備不足感が否めない。企業との連絡を密にし、より一層サポート力を高める事を希望します。

## 6 教育環境

- ・実習・学科ともに最新の美容界を伝える意味で講師の切り替えも重要と考える。
- ・校舎がいつもキレイにされていて感心する。コロナ禍においても従来の指導徹底がよい影響を及ぼしているのと思う。
- ・防災対策、安全対策はしすぎることはない。今後の更なる充実を希望する。

## 7 学生の募集と受入れ

- ・派手さはなくとも、堅実な広報活動は榎本学園らしい。今後も続けてほしい。
- ・今後はSNS等も上手に利用していくことを希望します。
- ・榎本学園4校合同での広報活動がある一定ラインまではプラスとなるが、各業界の差を考慮した募集要項や社会人への広報ツールは検討する必要がある。

## 8 財務

- ・現状にまったく問題ないと思う。
- ・適正なもの認知している。

## 9 法令等の遵守

- ・現状にまったく問題ないと思う。

## 10 社会貢献

- ・学生時代に、地域・社会への貢献やボランティアを体験できる機会があることが望ましい。
- ・地域の方から、イベントへの参加依頼の声がかかるのは、学生や教職員の皆さんが日頃から真摯に活動しているからだと思心する。今後も、その姿勢を忘れずに活動を続けてほしい。
- ・学生時代に芽生えた、社会の中で生かされている実感やボランティアの心が実社会でより一層成長するという考えに共感する。

以上